

1 番 大山幸真です。

通告に基づきまして、一般質問を行います。

## 1 岩泉町地域公共交通計画について

本町においては、町域が広大で集落が分散し、さらに急速に高齢化が進行するという地理的・社会的要因により、今後、公共交通の維持と住民の移動手段の確保が極めて重要となります。早急な公共交通インフラの整備が必要と考えます。

現在、安家地区では安家地区デマンドタクシー、久慈行きタクシーバス、有芸地区では宮古市内に向かう有芸すずらんバス、小川地区コミュニティタクシー、大川地区では岩泉町交通空白地有償運送（通称：大川コミュニティタクシー）が運行中です。

また、多額の公費により運行している町民バスは、利用者数の減少が進み赤字運行となっていると認識いたします。この現状をどう捉え、今後のダイヤ見直しや減便など、運行中の二次交通との公費バランスをどのように整え、町民のニーズに対応されていくのか町長の所見を伺います。

## 2 保育園留学について

現在、本町においては人口減少、一次産業の担い手不足など、過疎地域に共通する様々な課題に直面しております。

このような課題については、5年後、10年後と将来を見据えた移住定住促進、関係人口・交流人口の拡大を基軸とした新たな取り組みが必要と考えます。

その一つの取り組みとして、全国では、「1～2週間程度、家族で地域に滞在し、こどもが主役の暮らし体験」を行う保育園留学が注目されております。保育園留学では、自然を活かした体験や地産地消による食育など、岩泉町ならではの体験の場を提供することができます。さらに発展的には保護者の一次産業体験を通して岩泉町のファンの増加が期待され、将来的には関係人口の増加、移住定住の可能性のある取り組みとして期待できます。将来の岩泉町をより良い町へと成長させるための戦略になると考えますが、現在、保育園留学を含め、移住定住に関する新たな取り組みをどのようにお考えか町長の所見を伺います。

## 1番 大山 幸真 議員の御質問にお答えします。

議員御案内のとおり、広大な町土に集落が分散し、高齢化も進行している中においては、町民の移動手段の確保と公共交通の維持は極めて重要な課題であります。

そのような中で、各地域で展開されている二次交通の運行は、町民の日常生活を支える貴重な移動手段であり、地域間・地域内の移動機会を確保するための不可欠な手段となっております。また、町民バスにつきましては、各地区と町中心部を結ぶ主要な役割を果たしておりますが、利用者数の減少と経費の高止まりが大きな課題であると認識しております。

こうした状況を踏まえ、公共交通に係る公費負担の抑制に努め、かつ、町民の移動ニーズにしっかりと応えていくためには、町内公共交通体系を一体的に捉え、再構築する必要があるものと考えております。

具体的には、減便やダイヤ改正、運行車両の規模縮小などが想定されますが、これらの施策を実施するに当たっては、「町地域公共交通協議会」による評価を実施し、令和9年度からの次期計画策定において、二次交通と公費のバランスに配慮しつつ、町民の日常生活を支える安定的な交通網の再構築を進めてまいります。

次に、保育園留学についてであります。保育園留学は、

家族で地域に1～2週間滞在し、保護者はリモートワークでの仕事と暮らしを両立できることや、一次産業の体験などが実践できる民間プログラムとして近年注目されております。

人口減少に端を発する様々な課題に対応するためには、将来を見据えた移住定住対策の促進と関係人口・交流人口の拡大を基軸とした新たな取組が不可欠であります。

議員御提案の保育園留学につきましては、町の魅力を体感することにより、関係人口の創出や、地域経済の循環に寄与する画期的な取組であると認識しておりますが、保育現場での安全性の確保も必要でありますことから、まずは、受け入れ側の体制づくりを調査研究してみたいと存じます。

関係人口を拡大し、将来的な移住者の増加につなげていくための取組は、本町の未来を開く重要な戦略の一つでありますことから、先行事例を参考としながら新たな移住定住施策に積極果敢に取り組んでまいります。

以上で答弁を終わります。